



『校訓』 従順 勤勉 愛徳 (全国にある姉妹校共通の校訓です)

従順：眞の自由を知るよろこび 勤勉：能力をみがき、役立てるよろこび 愛徳：互いに大切にし合うよろこび

～今月の聖句～

人の口は、心からあふれ出ることを語る。

(ルカによる福音書 6. 45)

1月25日は創立記念日です

八代白百合学園高等学校は、創立からこれまで、116年の歴史を刻んできました。当時の記録を見てみると、1889年(明治22年)フランスのコール神父様が八代の殉教者の遺跡を探し、キリスト教の再興をはかるため熊本・八代に派遣されました。当時の八代は貧困から治療も受けられずに苦しんでいる人々が多くいたため、人々を救済するためにシャルトル聖パウロ修道女会に協力を求め、医師の経験を持つスール・ウラリ(初代校長)と看護師のスール・アンジェル、日本人看護師マリ・ジョゼフ・小磯エイの3人が八代に派遣されました。到着するとすぐに、貧しい人々の病院「博愛医院」や身寄りのない子ども達の施設

「ナザレ園」を作っていました。そして、次第に教育へと事業が拡大していき、「私立八代技芸女学校」が設立されました。1909年(明治42年)のことです。

コール神父様と3人のスール達の活動は、貧しく苦しんでいる人々のためにできること、つまり、「弱い立場の人々に寄り添う」という想いから始まっています。これは、現在も受け継がれている建学の精神です。

～学園の歴史～

1909年(明治42年)「私立八代女子技芸学校」として認可を受け、1910年(明治43年)4月には、スール・ウラリ校長のもと、スール・カタリナ片岡マサ他職員4名、生徒数41名でスタートしたと記されています。その後、大正時代には「私立八代技芸女学校」「八代実科高等女学校」「八代成美高等女学校」と組織

変更させながら校名が改称されていき、1947年(昭和22年)には「八代白百合中学校」が設置され、翌1948年(昭和23年)に「八代白百合高等学校」が設置されました。そして、1951年(昭和26年)に「八代白百合学園中学校」・「八代白百合学園高等学校」に改称されました。中学校は1973年(昭和48年)に最後の卒業生を送り出しましたが、高校は現在の校名になってから75年を迎えます。これまで1万人を超える卒業生を輩出し、様々な分野で白百合の花を咲かせていらっしゃいます。

ちなみに、聖パウロの回心の記念日である1月25日を学園の創立記念日としています。

現在、スール・ウラリ校長・スール・アンジェル先生は八代市鷹辻町にあるシャルトル聖パウロ修道女会墓地から私達を見守り続けていらっしゃいます。

校内では、コミュニケーションエリアに創立者のことをはじめ学園の歴史が展示されていますので、是非ご覧ください。

～斯華会について～

本校同窓会の名称である「斯華会(このはなかい)」は、「斯(か)くて華(はな)あり=学生時代に築いた人生の土台が、社会に出て華が開く」という意味で、1921年(大正10年)に当時の片岡マサ校長先生が命名されました。今年で命名105年を迎えます。

創立記念日に向けて、明治、大正、昭和、平成の時代の変遷とともに学校が歩んできた歴史に思いを馳せ、この令和の時代を生きるみなさん達も、先輩方からのバトンをしっかりと受けとり、建学の精神を受け継いでいきましょう。

※毎月紹介している生徒たちの頑張りは2月にまとめて掲載させていただきます。